

Moon Village Association活動紹介

黒須 聡

Board of Directors,

Moon Market Development Coordinator

2025年5月21日



自己紹介



黒須 聡

Board of Directors, Moon Market Development
Moon Village Association

UNISEC(大学宇宙工学コンソーシアム) Global理事

一般社団法人CROSS U サポーター

日本マーケティング学会 理事

横河電機株式会社
宇宙事業開発室 創始者 & エグゼクティブ・メンター

CEO, Cross Space & Sustainability, LLC



Moon Village Association（ムーンビレッジ協会）とは？

- 月社会実現を目的として、2017年6月にオーストリア、ウィーンで設立された非政府組織（NGO）。
- 国際宇宙航空連盟（IAF）会員。国連宇宙空間平和利用委員会（COPUOS）および経済社会理事会（ECOSOC）の常設オブザーバー。
- 2023年に「平和的かつ持続可能な月面活動のための推奨フレームワークと主要要素」という文書を、持続可能な月面活動に関する国際専門家グループ（GEGSLA）による草案として発表。

- 60か国から500人以上が参加
- 25%が女性
- 24%が学生、
38%が若手プロフェッショナル



- 25か国から30の企業・団体会員
- 15か国から16のパートナー組織

ワーキング
グループ

建築コンセプト

月面統治

文化的配慮

探査模擬実験

月面商業・経済

月面における
人体生理・生物学

月面農業と
持続可能技術

産業

New !

- 産業WG目的

- 月面産業を、今後大きな成長が期待される新たな産業領域として位置づけるために、具体的な将来予測と、実現に向けたロードマップを提示します。
- さらに、月面開発から得られる技術や知見を地球上の課題解決にも応用することで、月と地球の双方で相乗的なビジネス展開を図っていきます。

- 体制

- Co-chairs

- Satoru Kurosu, MVA Board of Directors and Moon Market Development Coordinator
- Mr. Atsushi Saiki, Executive Fellow, ispace, Inc.

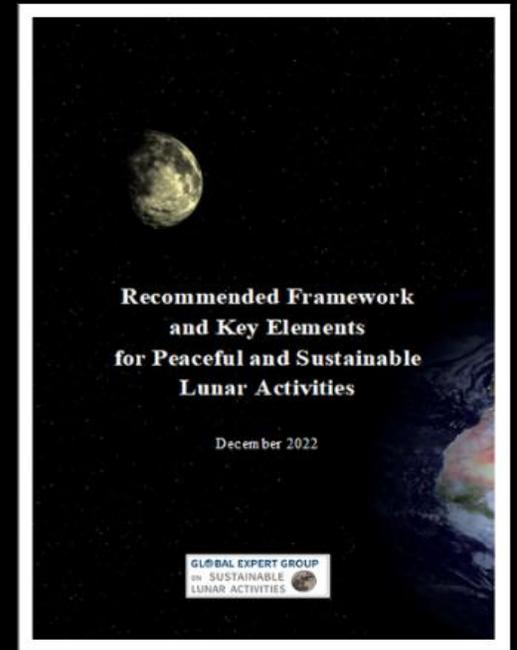


- Members

- Experts from diverse backgrounds, including:
 - Plant engineering
 - Resource development
 - Investment
 - Consulting
 - Space agencies



- 2022年以降、多くの国や関係者による多数の月探査ミッションが実施されている。
- 一部のミッションは近接した地域（例：南極、月周回軌道）で実施される予定。
- 調整メカニズムが欠如すると、有害な干渉を引き起こす可能性がある。
- 信頼醸成を図り、平和的な協力を促進する必要がある。
- MVAは、2023年初頭に「平和的かつ持続可能な月面活動のための推奨フレームワークと主要要素」という文書を、持続可能な月面活動に関する国際専門家グループ（GEGSLA：Global Expert Group on Sustainable Lunar Activities）による草案として発表。
- GEGSLAの運用段階は2023年に開始され、最近承認されたCOPUOS月面活動に関する協議のための行動チーム（Action Team on Lunar Activities Consultation: ATLAC）のインキュベーターとして機能し、その必要な支援を提供する予定。





International Moon Day (国際月記念日)

第76回国連総会（2021年12月9日）にて、ムーンビレッジ協会の提案に基づき、人類の月面到達の偉業を記念するため「International Moon Day (国際月記念日)」を、2022年7月20日から毎年開催することを決定した。

2022

30 Events
27 Countries

2023

46 Events
41 Countries

2024

46 Events
41 Countries



International Moon Day 2024

Main Event - Harbin



Co-organised by:

Moon Village Association
Harbin Institute of Technology
Chinese Society of Astronautics

- 今年のIMDは7月20日にドバイでメインイベント開催決定！
- 日本イベント開催募集中！



Global Moon Village Workshop & Symposium



第7回 ムーンビレッジ国際ワークショップ/シンポジウム

2023年12月6日-10日

倉敷 / 岡山 / 鳥取

持続的月面有人活動の実現と月における人類社会の構築に向けて

主催 / ムーンビレッジアソシエーション, ホスト / 岡山大学, 鳥取大学, 京都大学
後援 / 倉敷市, 大原美術館, 岡山大学, MASC, 月惑星居住連合(SUHPHS), JAXA

ムーンビレッジ国際ワークショップ／シンポジウム

倉敷美観地区をメインベニューとして、ムーンビレッジ国際ワークショップ／シンポジウムを開催します。月面における持続的有人活動から人類社会の構築という視点で、技術的課題、月面における経済活動、法制度、ライフサイエンス、技術的な可能性、文化人類学的側面などの分野の議論をします。倉敷市、岡山大学、鳥取砂丘を舞台に地元の皆さん向けにアウトリーチイベントも開催します。



ワークショップ／シンポジウム スケジュール

- 6.Dec. レセプション
- 7.Dec. MVA ワークショップ / シンポジウム
- 8.Dec. MVA ワークショップ / シンポジウム
- 9.Dec. アウトリーチイベント
- 10.Dec シンポジウムとアウトリーチイベント

倉敷美観地区
倉敷美観地区
倉敷美観地区
@倉敷／岡山
鳥取砂丘

第7回ムーンビレッジ国際ワークショップ／シンポジウム
2023年12月6日ー10日 倉敷／鳥取
持続的月面有人活動の実現と月における人類社会の構築に向けて



MVA国際ワークショップ・シンポジウム・プログラム

MVAの活動紹介

ナショナルプログラムの紹介

民間企業やベンチャーの活動紹介

さまざまな分野の研究発表

月探査の技術，月の資源探査と開発，有人滞在の課題，人文社会科学的側面

月でのビジネス，極域・溶岩ドームの探査，月面基地とインフラ

宇宙飛行士の特別講演

パネルディスカッション

バンケット@大原美術館



ムーンビレッジアソシエーション (MVA)

国際ワークショップ・シンポジウム2023

アウトリーチイベント倉敷

2023年12月9日マービーふれあいホール10時開演-13時

宇宙探査と月での居住を実現しよう



共催：MVA, MASC, 倉敷市

プログラム

ムーンビレッジアソシエーションの活動・・・John Mankins(MVA副会長)

JAXAの月探査計画・・・山中浩二 (JAXA探査センター長)

月の輸送サービスから月面都市構想・・・朝妻太郎(ispace)

人類の生活圏・生存圏拡大のための月の水の利活用・・・内田敦 (三菱総研)

空飛ぶクルマ・MASCの活動紹介・・・坂ノ上博史(MASC)

特別講演：はやぶさ2の冒険と太陽系の資源・・・津田雄一(ISAS/JAXA)

特別講演：月に行ってみませんか・・・金井宣茂(JAXA宇宙飛行士)



倉敷アウトリーチイベント(マービーふれあいセンター)



8th Global Moon Village Workshop & Symposium



2-3 December 2024

Luxembourg European Convention Center

Hosted by



LUXEMBOURG
SPACE AGENCY

Gold Sponsor



Silver Sponsor

esric

YOKOGAWA 

www.mva2024.lu

8th Moon Village Workshop & Symposium



2024のテーマ

- 国際月面開発計画と課題
- 宇宙産業および非宇宙産業における月市場の現状と展望はどうなっているのか？
- 月面および地下空間の活動に必要なとされるサービスにはどのようなものがあるのか？
- 月探査と利用が科学にどのような利益をもたらすのか？
- 科学的および商業的な利益を考慮しながら、月環境をどのように保護するのか？
- 国連や非政府組織を活用して、月面活動に関する行動規範をどのように合意するのか？

主な登壇者

- 国際宇宙機関：LSA、JAXA、ESA、NASA、DSEL (China)、ASI (Italy)、KASA (Korea)
- New Space企業：ispace、Lightigo、ConnectSAT、Spacebackend
- 宇宙参入大手企業：三菱総研、大成建設、横河電機
- 老舗宇宙企業：Lockheed Martin
- 宇宙法関係者：Space Law Center
- アカデミア、学生：ルクセンブルク大、Johns Hopkins大、Grenoble Alpes大、Essen大、NSW大、ISU、北京大、早大





トピックス



- 今回のイベントでは、日本から参加された方々のご活躍により、日本の月面産業化に向けた取組を国際社会にアピールすることができた。
- 冒頭キーノートスピーチを行ったセレスLSA長官を始め、ルクセンブルグ及び欧州宇宙関係者が、月面開発に熱意を持って積極的に取り組んでいることが感じられた。
- 国際的に中立の立場を取るMVAが海外(欧州)で開催したイベントにより、日本では普段あまり耳にしない情報が得られた。
 - 中国CNSAの下部組織であるDSEL(Deep Space Exploration Laboratory)により、ILRS(International Lunar Research Station)についての発表があった。2035年までに実施する「Basic Model」に基づき、2030年までに有人着陸を達成し、南極に恒久基地を建設する予定。さらに2045年までの「Expanded Model」では、月面基地と月軌道上ステーションを建設し、火星への有人着陸に向けた準備を進めるロードマップを発表し、広く参加を呼び掛けた。既に約50か国が参加しているとのこと。そして、2,000エーカーの土地に世界最大規模の深宇宙開発都市となる1Mm²の大きさのILRS Global HQを建設すると宣言した。
 - KASA(韓国宇宙局)が、将来深刻化するであろう月軌道でのスペースデブリ対策について、リーダーシップを発揮する姿勢を示していた。
- 宇宙開発を持続的に進めるために、宇宙由来技術を地上へ応用する取り組みへの関心が高まっている。これはLuxembourg Space Week全体を通して感じた。

9th Global Moon Village Workshop & Symposium

December 3-4
Turin, Italy

Hosted by



Thank you for your attention!

今年のWorkshop & Symposiumはイタリアのトリノで
12月3、4日に開催されることになりました。

皆さんトリノでお会いしましょう！

www.moonvillageassociation.org

www.internationalmoonday.org

